

私大連発第542号  
平成29年11月21日

経済団体、業界団体・協会  
代 表 者 各 位

一般社団法人日本私立大学連盟  
会 長 鎌 田 薫  
学 生 委 員 会  
担当理事 土 屋 恵 一 郎  
(公 印 省 略)

「ワンデーインターンシップの弊害是正に向けて（提言）」の送付について

この度、当連盟では、大学生の就職活動にかかわってインターンシップの問題を取り上げて検討を行い、標記の提言をとりまとめました。

経済団体、業界団体・協会のトップの皆様には是非ともご高覧たまわり、ご理解とご協力を賜りたく、お願いを申し上げます。

何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

# ワンデーインターンシップの 弊害是正に向けて(提言)

—「ワンデーインターンシップ」という呼称は廃止すべきである—

## ワンデーインターンシップの弊害是正に向けて（提言）

——「ワンデーインターンシップ」という呼称は廃止すべきである——

一般社団法人日本私立大学連盟

インターンシップには、学生が就業体験を積み、社会で働くことに関する気付きを得て、自分に合った企業へ就職する、その結果、ミスマッチが解消される、という重要な役割がある。残念ながら、現状の「ワンデーインターンシップ」と呼ばれるものの多くは、その役割を十分果たしているとは言えず、学生に無用の混乱と負担を招いているに過ぎない。ワンデーインターンシップが招く混乱の弊害是正の第一歩として、「ワンデーインターンシップ」という呼称を廃止しよう、というのが今回の提言の主旨である。

現在、インターンシップは就職活動を行う学生たちにとって、ほとんど必須のものであるかのように受け止められている。インターンシップにはいろいろな定義があるが、基本的には就業体験を伴うもの、という点が共通して重視されている。学生たちが就業体験を積み、社会に出て企業で働くということがどういうことなのか、その際、どのような企業がどのような就業環境を提供しているのか、自分が社会で何をすべきなのか、自分が働くべき職場とはどのようなものなのか、自分にとって働きやすい職場はどこなのか、いろいろな気付きを与えてくれるのがインターンシップであると言える。

また、学生の就職に関しては、「七五三」という現象が指摘されており、就職後3年以内に離職してしまう新入社員が中卒で7割、高卒で5割、大卒で3割と言われている。このミスマッチは学生にとっても、企業にとっても非常に大きな損失であると言わねばならない。このような大きな社会損失の低減に対して、インターンシップは多大なる効果を持っていると期待されている。

しかしながら、現状においては、インターンシップの大半がワンデーインターンシップであり、「就業体験」とは名ばかりで、事実上は会社見学あるいは企業説明会といった内容のものが半数近くを占める。ワンデーインターンシップを学生のエントリー促進や囲い込みの手段とするなど、企業側が実質的に採用選考過程としているケースが多く見られる。そのため、学生側も就業体験を求めるのではなく、選考機会としてとらえて参加する傾向が年々高まっている。広報解禁や選考解禁前に行われるワンデーインターンシップの会社説明会および選考機会的性質は、経団連の「採用選考に関する指針」にも反するものであり、このような状況は根本的に解消されるべきである。

もちろん、現状の「ワンデーインターンシップ」と呼ばれているものが果たしている役割自体を否定しているわけではない。学生たちにとって企業からの情報提供は、たとえ1日のプログラムであっても、当該企業や業界を知るとてもよい機会である。一方、企業側にとっても、自社のスタンスの表明は将来の従業員や社会などステークホルダーに対する重要なCSR活動だとも言える。しかしそれはインターンシップとは目的が異なるものである。

呼び方だけを変えるのではなく、日本のインターンシップを根本から考え直さなければならぬ、そもそも就職活動の全体像を変えない限り、何も変わらない、という意見もあり、結局、何も変わらないというここ十数年の苦い経験がある。そこで、とにかくやれるところからやろうというのが今回の提言の主旨である。

再度強調したいことは、インターンシップには本来、就職のミスマッチ解消に大きな効果が期待されるものの、現状で行われているワンデーインターンシップはそれとは別物になってしまっている、という点である。そこで、そのようなプログラムにインターンシップという呼び名をあてることをやめ、本来のインターンシップとワンデーインターンシップを明確に分離すべきであると考えます。

インターンシップ本来の効果を期待し、就職ミスマッチ解消に向けて、是非、企業、団体の皆さまのご理解とご協力を賜れば幸いです。

## 委員名簿

### <学生委員会>

担当理事	土屋 恵一郎	明治大学	学長
委員長	齊藤 泰治	早稲田大学	学生部長・政治経済学術院教授
委員	森 正明	中央大学	学生部長・文学部教授
	上田 雅弘	同志社大学	学生支援機構学生支援センター所長・商学部教授
	永星 浩一	福岡大学	学生部長・商学部教授
	神澤 信行	上智大学	学生センター長・理工学部教授
	笹倉 淳史	関西大学	キャリアセンター所長・商学部教授
	山口 隆之	関西学院大学	学生活動支援副機構長(学生部長)・商学部教授
	千田 憲孝	慶應義塾大学	学生総合センター長・理工学部教授
	岡本 大輔	慶應義塾大学	前就職部長・商学部教授
	越川 芳明	明治大学	副学長(学務担当兼学生部長)・文学部教授
	北條 英勝	武蔵野大学	教務部長・人間科学部教授
	岡田 悦典	南山大学	学生部長・法学部教授
	坂本 雅士	立教大学	学生部長・経済学部教授
長	澤 克重	立命館大学	学生部長・産業社会学部教授

### <学生委員会キャリア・就職支援分科会委員>

分科会長	岡本 大輔	慶應義塾大学	前就職部長、商学部教授
委員	中原 なぎさ	福岡大学	就職・進路センター事務室長
	藤村 博之	法政大学	イノベーション・マネジメント研究科教授
	森田 浩一	上智大学	学生局キャリアセンター長
	原 徹	関西大学	キャリアセンター事務局長
	佐藤 和	慶應義塾大学	就職部長、商学部教授
	小林 宣子	明治大学	就職キャリア支援部就職キャリア支援事務長
	佐々木 宏	立教大学	キャリアセンター部長、経営学部教授
	石原 一彦	立命館大学	キャリアセンター部長、政策科学部教授

## 平成 29 年度キャリア・就職支援分科会開催記録

### ○第 1 回

日 時：平成 29 年 5 月 30 日（火） 12 時 30 分～15 時 30 分

場 所：連盟会議室

- 議 題：（1）「インターンシップの推進等に関する調査研究協力者会議」  
（議論のとりまとめ案）について  
（文部科学省の担当の方から概要をご報告いただいた）  
（2）インターンシップのあり方についての検討  
（3）就職・採用活動の状況について

### ○第 2 回

日 時：平成 29 年 7 月 4 日（火） 10 時～12 時

場 所：連盟会議室

- 議 題：（1）インターンシップのあり方に関する検討について  
（2）就職・採用活動の状況について

以上

# 一般社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧

(大学名ABC順)

(123大学 平成29年10月現在)

愛知大学	城西大学	武蔵野大学	白百合女子大学
亜細亜大学	城西国際大学	武蔵野美術大学	昭和女子大学
青山学院大学	順天堂大学	名古屋学院大学	園田学園女子大学
跡見学園女子大学	関西大学	南山大学	創価大学
梅花女子大学	関西学院大学	日本大学	大正大学
文教大学	関東学園大学	日本女子大学	拓殖大学
筑紫女学園大学	関東学院大学	ノートルダム清心女子大学	天理大学
中京大学	慶應義塾大学	大阪学院大学	東邦大学
中央大学	恵泉女学園大学	大阪医科大学	東北学院大学
大東文化大学	敬和学園大学	大阪女学院大学	東北公益文科大学
獨協大学	神戸女学院大学	大阪薬科大学	東海大学
獨協医科大学	神戸海星女子学院大学	大谷大学	常磐大学
同志社大学	皇學館大学	追手門学院大学	東京医療保健大学
同志社女子大学	國學院大学	立教大学	東京情報大学
フェリス女学院大学	国際大学	立正大学	東京女子大学
福岡大学	国際武道大学	立命館大学	東京女子医科大学
福岡女学院大学	国際基督教大学	立命館アジア太平洋大学	東京経済大学
福岡女学院看護大学	駒澤大学	龍谷大学	東京農業大学
学習院大学	甲南大学	流通科学大学	東京歯科大学
学習院女子大学	久留米大学	流通経済大学	苫小牧駒澤大学
白鷗大学	共立女子大学	西武文理大学	東洋大学
阪南大学	京都産業大学	聖学院大学	東洋英和女学院大学
姫路獨協大学	京都精華大学	成城大学	東洋学園大学
広島女学院大学	京都橘大学	聖カタリナ大学	豊田工業大学
広島修道大学	松山大学	成蹊大学	津田塾大学
法政大学	松山東雲女子大学	西南学院大学	和光大学
兵庫医科大学	明治大学	清泉女子大学	早稲田大学
兵庫医療大学	明治学院大学	聖心女子大学	山梨英和大学
石巻専修大学	宮城学院女子大学	仙台白百合女子大学	四日市大学
実践女子大学	桃山学院大学	専修大学	四日市看護医療大学
上智大学	武蔵大学	芝浦工業大学	



一般社団法人日本私立大学連盟 教学支援課  
〒102-0073  
東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 7 階  
TEL.03-3262-3603